

## 平成27年度大館市立図書館 指定管理業務評価シート(全館)

評価視点	評価項目	事業区分	評価指標	数値目標	指定管理者評価				図書館協議会評価	
					事業計画の概要	事業実績	実績値	評価	評価内容	評価
運営全般事項	人員配置	指定	職員配置が適切であるか。また、業務が円滑に遂行されているか。		全館合計17名体制とし、業務を円滑に遂行する。	出産及び育児休暇取得の職員の代替に事務能力の高い職員を雇用し、17名体制を維持して業務水準を維持した。	A	妥当である。	A	
	人材育成	指定	職員への教育・研修を実施し、職員の能力向上に努めているか。		各種図書館団体主催の研修会に職員を派遣する他、講師を招いての研修や職員による相互研修・相互学習に取り組む。	臨時職員も含め各種研修会にできる限り参加し、先進館の視察や人脈づくりに力を入れた。また職員が講師になっての研修会開催や、職員の資格取得にも積極的に取り組んだ。	A	妥当である。	A	
				・職員研修会開催回数						12回/年
				・職員対応に起因する苦情件数						2件/年
	組織の管理体制の確立	指定	現場スタッフと管理間の意志疎通や情報共有がとられているか。また、工夫がされているか。		日報・回覧のほか職員間の対話に努め、漏れのない情報共有を目指す。	重要事項は全員への回覧を行うほか、担当者が各職員との直接対話による意思疎通に努めた。日常業務に関しては日報のほか、細かな連絡を共有のノートに記入している。	A	妥当である。	A	
	ボランティアの育成	指定	ボランティアの育成が、図られているか。		ボランティアの裾野を広げるための施策を行う。	職員が講師となりボランティア対象の「本の補修講習会」を実施した。県立図書館職員による研修会「資料保存と修理の基礎」にもボランティア、一般の参加を呼びかけ実施した。	A	妥当である。	A	
	広報・PR	指定	広報・PRをどれだけ行い、効果がどれだけあったか。		図書館のホームページや図書館だよりの発行で効果的な情報提供に努める。また、随時報道機関へのニュースリリース発信にも努める。北鹿新聞へのコラム掲載も継続する。	3種類の広報誌を発行した。その他の情報発信も県内では類を見ない規模で行った。	A	妥当である。	A	
				・広報おおだてへの掲載回数						12回/年
・ホームページの情報発信回数				60回/年						
・広報紙の発行回数	18回/年									
施設設備の維持管理	指定	施設維持管理が良好に行われているか。また、清掃が行き届いているか。		各施設で適切な日常点検や定期点検の実施に努める。	日常点検や定期点検の他、館内巡回でも設備備品の不具合等に留意し、可能なものは迅速に必要な措置を講じた。躯体のひび割れ、タイルの小片落下など憂慮される事態も生じているため、市当局への報告・相談を随時行った。	A	妥当である。	A		
危機管理体制の確立	指定	危機管理に関する対応方法が職員に周知されていて、緊急時の連絡体系が整っているか。		消防訓練や避難訓練等を前2年間は紙上及び机上訓練としたが、27年度は消防訓練を利用者も参加の上実施する。	巡回は開館・閉館時の他、日中に複数回行うよう努めた。カウントは全館巡回のみであるが、それ以外に部分的な巡回を随時行った。消防訓練は、避難・消火・通報を同時に行う総合訓練として実施した。28年度以降は地震を想定した訓練も行い、利用者参加によりマニュアルの精密化に努める。	A	妥当である。	A		
			・防犯のための日常的巡回取組						3回/日	
			・不審者対策対応等の訓練回数						2回/年	
経費の適正な執行	指定	経費の効果的、効率的な執行がなされ、その目標が達成されているか。		原油価格や物価等の動向にも左右されるが、できる限りの支出削減に努める。ただし、利用者サービスの低下に繋がらないよう留意する。	別紙 注記①のとおり。	A	妥当である。	A		
			前年比						・人件費外の経費削減率	1%以上
			・電気料削減率						- %以上	
			・水道量削減率						- %以上	
			・燃料削減率						- %以上	

評価視点	評価項目	事業区分	評価指標	数値目標	指定管理者評価				図書館協議会評価	
					事業計画の概要	事業実績	実績値	評価	評価内容	評価
運営全般事項	館長のリーダーシップ	指定	館長がリーダーシップを発揮して運営を行なっているか。	正職員の長期休業が予定される中、図書館サービスの低下のないように、業務担当の見直しを行うとともに、臨時職員も含めた全員のスキル向上に取り組む。また、対外的な情報発信等にも積極的に関与する。	実質正職員1名減となる27年度は、臨時職員も含め担当業務を各員に割り振り、全員で業務執行にあたる態勢をとった。結果的に大きな問題もなく、それぞれのモチベーションを高め、図書館業務への視野を広げる機会になったと思われる。情報発信に関しても、北鹿新聞へのコラム連載や、図書館後援会主催講演会を引き受けるなど、率先して図書館からの発信に努めた。	A	妥当である。	A		

市の総合評価

所管課コメント	判定 A	運営全体的に努力がみられ、自己評価は妥当である。
---------	---------	--------------------------

# 指定管理業務評価シート(全館)

評価視点	評価項目	事業区分	評価指標	数値目標	指定管理者評価				図書館協議会評価	
					事業計画の概要	事業実績	実績値	評価	評価内容	評価
基本的サービス	個人利用者のサービス	指定	利用者状況について、前年度と比較し増加傾向にあるか。		指定管理初年度からの各数値の増加傾向が落ち着きを見せてきており、指定管理に移行してからの新規施策に利用者が慣れ、人口減少や高齢化による利用低下が数字に現れてきつつある。27年度は職員構成上新しい施策に取り組みにくい、基本的な図書館サービスを見つめ直す機会とし、職員個々のスキルアップによるサービス向上から利用者にアピールする年としたい。	昨年度と対照的に年度前半の落ち込みが大きく、12月以降は前年比を大きく上回ったが、最終的に前年実績を下回る項目が多かった。新規の取組みを行う余裕がなかったこと等の反省材料もあるが、県全体の低落傾向に比べると小さい低減率であることは、職員の頑張りがあったものと評価したい。中でも予約受付件数の伸びは著しく、4館での貸借や他市町村との相互貸借がたいへん活発になっていることは特筆すべき成果である。		B	妥当である。	B
			・貸出利用者数	56,000人/年	・貸出利用者数	54,520人/年				
			・新規登録者数	1,250人/年	・新規登録者数	1,012人/年				
			・貸出冊数	188,000冊/年	・貸出冊数	184,372冊/年				
			・予約受付件数	15,000件/年	・予約受付件数	15,893件/年				
蔵書構築	指定	指定	選書計画が、4館それぞれ特色を持った計画とされているか。また、図書選定及び除籍が、仕様書に規定する選定組織で行なわれているか。		選書委員会による選書会議を定期的に行い、情報共有と予算の効率的執行に努める。除籍に関しては、要綱の規程に則り過不足なく行う。	参考図書や住宅地図など高額資料購入が比較的多かったため購入冊数は目標数値を下回ったが、選書方針に従った結果であり蔵書構築としては及第点と考える。反面、寄付点数は増えており、利用者等の理解協力が進んでいる好ましい傾向がうかがえる。		A	妥当である。	A
			・購入冊数	4,400冊/年	・購入冊数	4,265冊/年				
			・寄附受入冊数	1,100冊/年	・寄附受入冊数	1,156冊/年				
利用者に提供されるサービスの品質	指定	指定	職員が、一般図書のほか自館所蔵資料に精通するため努力しているか。		選書や展示の担当を増やすなど、図書館サービスへの意識を全体として高める。	新着図書情報やレファレンス情報などの共有に努めた。また、展示等で関連書への理解も進み、職員個々の知識・見識も向上している。		A	妥当である。	A
利用者に提供されるサービスの迅速性及び的確性	指定	指定	市民ニーズを汲み取って、時代の変化にすばやく対応し、市民のための具体的で有効な図書館サービスに結びつける努力が行なわれているか。		地域と人を知り、市民から学ぶ姿勢でサービス向上に努める。	各イベントやフロアワークにおいて市民との対話を増やし、意見要望の収集と対応に力を注いだ。また、職員発案による「緑」をテーマにした4館合同展示や、閲覧スペースへの植物配置などが市民から高い評価を得た。		A	妥当である。	A

## 市の総合評価

所管課コメント	判定 A	人口減少や高齢化による利用者減少にあるなか、新規事業の取組みや、利用者拡大・新規登録者の確保に向けて努力している。今後も、職員個々のスキルアップを図りながら、利用者へのサービス向上を積極的にアピールすることを期待する。
---------	---------	---